

2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月10日

上場会社名 株式会社フジオフードグループ本社 上場取引所 東
コード番号 2752 URL https://fujigroup.com/
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）藤尾 政弘
問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）藤尾 英雄 TEL 06-6360-0304
半期報告書提出予定日 2026年8月10日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	15,929	1.6	58	△76.5	43	△73.1	△113	—
2025年12月期中間期	15,674	1.4	250	△62.6	161	△75.2	13	△96.7

（注）包括利益 2026年12月期中間期 △33百万円（－％） 2025年12月期中間期 42百万円（△90.6％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	△2.22	—
2025年12月期中間期	0.26	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	22,820	8,533	37.4
2025年12月期	24,429	8,685	35.5

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 8,528百万円 2025年12月期 8,679百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2026年12月期	—	0.00			
2026年12月期（予想）			—	3.00	3.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,653	2.3	510	△29.7	445	△25.2	110	22.3	2.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期中間期	51,299,789株	2025年12月期	51,267,537株
2026年12月期中間期	487株	2025年12月期	74株
2026年12月期中間期	51,274,444株	2025年12月期中間期	51,247,366株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(中間連結貸借対照表に関する注記)	10
(中間連結損益計算書に関する注記)	10
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景に緩やかな回復基調が続きました。一方で、米国の通商政策を巡る不確実性や地政学リスクの高まり、物価上昇による消費者マインドの低下等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、賃上げによる所得増加やインバウンド需要の拡大により外食需要は回復しつつあるものの、食材やエネルギー価格、人件費の上昇等により、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリーで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」を中心とした全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。

以上の結果、売上高159億29百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益58百万円（前年同期比76.5%減）、経常利益43百万円（前年同期比73.1%減）、親会社株主に帰属する中間純損失1億13百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益13百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

<直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「麺乃庄 つるまる」、「さち福や」、「天麩羅 えびのや」等の事業展開を行っております。

当事業では、時間帯別売上分析による適切なシフトコントロールによってコスト削減を行うとともに、販売実績のABC分析から顧客ニーズを図りターゲットを狙った商品開発を行いました。また、季節フェアキャンペーンの推進、既存店舗の美装改装、SNSやメディアを活用したブランド認知度の向上等による集客力向上施策を実施し、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は151億90百万円（前年同期比2.1%増）、セグメント利益は13億87百万円（前年同期比3.3%減）となりました。

<FC事業>

FC事業につきましては、加盟企業及び社員独立による営業委託者とのコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指しております。

主な活動といたしましては、フランチャイズ加盟開発の強化、現環境に適した業態への変更の提案等を行ってまいりました。また、更なる事業規模拡大に向け、直営店の売却・営業委託を積極的に進め、ストック型のビジネスモデルへの転換に努めてまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は7億38百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント利益は5億35百万円（前年同期比7.0%減）となりました。

当社グループの2026年6月末時点の店舗数は689店舗（直営店（国内）388店舗、直営店（海外）5店舗、委託店（国内）77店舗、FC店（国内）200店舗、FC店（海外）19店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	委託店 (国内)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	82	2	25	154	6	269
神楽食堂 串家物語	70	-	4	22	2	98
麺乃庄 つるまる	35	-	15	9	8	67
さち福や	34	-	2	6	2	44
天麩羅 えびのや	28	3	2	3	1	37
その他	139	-	29	6	-	174
合計	388	5	77	200	19	689

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当中間連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は16億9百万円減少し、228億20百万円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から18億14百万円減少し、固定資産が2億5百万円増加しております。流動資産が減少した主な理由は、現金及び預金の減少15億5百万円、預け金の減少5億33百万円によるものであります。固定資産が増加した主な理由は、有形固定資産の増加2億17百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して14億57百万円減少し、142億87百万円となりました。これは主に、買掛金の減少2億27百万円、未払金の減少1億67百万円、借入金の返済による減少10億40百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する中間純損失の計上、配当金の支払い、譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行等により、前連結会計年度末と比較して1億51百万円減少し、85億33百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが6億59百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが9億65百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが12億10百万円の支出となり、この結果、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して15億12百万円減少し、61億3百万円(前年同期は115億25百万円)となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは6億59百万円の収入(前年同期は4億90百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前中間純損失が37百万円になったことに対して、非現金支出である減価償却費が2億80百万円、のれん償却額が48百万円、減損損失62百万円が発生し、預け金の減少5億33百万円、利息の支払額68百万円、法人税等の支払額99百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは9億65百万円の支出(前年同期は24億21百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億29百万円、固定資産の除却による支出1億41百万円、敷金及び保証金の差入による支出53百万円、信託受益権の取得による支出57億円に対し、信託受益権の償還による収入54億円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは12億10百万円の支出(前年同期は10億45百万円の収入)となりました。主な要因は、配当金の支払額1億53百万円、長期借入金の返済による支出10億40百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期通期の業績予想につきましては、2026年2月13日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,981	6,475
売掛金	655	628
棚卸資産	196	158
前払費用	262	306
未収入金	200	126
信託受益権	2,700	3,000
預け金	1,353	820
その他	103	121
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	13,450	11,635
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,510	3,597
工具、器具及び備品(純額)	290	329
土地	740	740
建設仮勘定	58	134
その他(純額)	69	84
有形固定資産合計	4,669	4,886
無形固定資産		
のれん	1,171	1,122
その他	53	78
無形固定資産合計	1,225	1,201
投資その他の資産		
投資有価証券	417	512
関係会社株式	160	170
繰延税金資産	35	28
敷金及び保証金	3,441	3,375
その他	1,220	1,211
貸倒引当金	△190	△202
投資その他の資産合計	5,085	5,096
固定資産合計	10,979	11,185
資産合計	24,429	22,820

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,611	1,383
1年内返済予定の長期借入金	3,570	3,410
未払金	1,480	1,313
未払費用	612	512
未払法人税等	87	68
未払消費税等	208	216
株主優待引当金	500	565
賞与引当金	3	6
資産除去債務	22	11
その他	383	418
流動負債合計	8,483	7,906
固定負債		
長期借入金	5,200	4,320
リース債務	64	70
資産除去債務	1,082	1,077
預り保証金	222	202
繰延税金負債	173	200
持分法適用に伴う負債	492	492
債務保証損失引当金	18	7
その他	5	9
固定負債合計	7,261	6,380
負債合計	15,744	14,287
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,971	5,989
資本剰余金	5,149	5,167
利益剰余金	△2,636	△2,904
自己株式	△0	△0
株主資本合計	8,484	8,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106	173
為替換算調整勘定	87	102
その他の包括利益累計額合計	194	275
非支配株主持分	6	5
純資産合計	8,685	8,533
負債純資産合計	24,429	22,820

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	15,674	15,929
売上原価	5,598	5,692
売上総利益	10,075	10,236
販売費及び一般管理費	9,825	10,177
営業利益	250	58
営業外収益		
受取利息	4	10
受取配当金	5	19
持分法による投資利益	0	9
債務保証損失引当金戻入額	7	11
その他	25	32
営業外収益合計	44	82
営業外費用		
支払利息	105	69
支払手数料	3	-
貸倒引当金繰入額	10	13
その他	13	15
営業外費用合計	133	98
経常利益	161	43
特別利益		
固定資産売却益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
店舗解約損	12	18
固定資産除却損	0	0
減損損失	71	62
特別損失合計	85	80
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	78	△37
法人税等	64	76
中間純利益又は中間純損失(△)	13	△114
非支配株主に帰属する中間純利益又は 非支配株主に帰属する中間純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	13	△113

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	13	△114
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	66
為替換算調整勘定	△14	13
持分法適用会社に対する持分相当額	2	1
その他の包括利益合計	28	81
中間包括利益	42	△33
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	41	△32
非支配株主に係る中間包括利益	0	△0

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	78	△37
減価償却費	266	280
のれん償却額	48	48
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	11
賞与引当金の増減額(△は減少)	△17	2
株主優待引当金の増減額(△は減少)	70	65
受取利息及び受取配当金	△10	△29
支払利息	105	69
支払手数料	3	-
株式報酬費用	11	16
為替差損益(△は益)	5	△2
店舗解約損	12	18
固定資産売却損益(△は益)	△2	-
固定資産除却損	0	0
減損損失	71	62
持分法による投資損益(△は益)	△0	△9
売上債権の増減額(△は増加)	△25	27
棚卸資産の増減額(△は増加)	56	37
仕入債務の増減額(△は減少)	△149	△228
預け金の増減額(△は増加)	385	533
未収入金の増減額(△は増加)	9	68
未払金の増減額(△は減少)	1	△140
未払消費税等の増減額(△は減少)	△53	7
その他	△38	△3
小計	830	798
利息及び配当金の受取額	10	29
利息の支払額	△109	△68
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△241	△99
営業活動によるキャッシュ・フロー	490	659

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△435	△529
有形固定資産の売却による収入	3	-
固定資産の除却による支出	△72	△141
定期預金の預入による支出	△243	△241
定期預金の払戻による収入	201	246
有価証券の取得による支出	△2,197	-
有価証券の償還による収入	1,199	-
信託受益権の取得による支出	△1,500	△5,700
信託受益権の償還による収入	650	5,400
貸付けによる支出	△15	-
貸付金の回収による収入	5	4
敷金及び保証金の差入による支出	△19	△53
敷金及び保証金の回収による収入	65	95
その他	△62	△45
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,421	△965
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	2,500	-
長期借入金の返済による支出	△1,338	△1,040
配当金の支払額	△102	△153
リース債務の返済による支出	△13	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,045	△1,210
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△893	△1,512
現金及び現金同等物の期首残高	12,418	7,616
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,525	6,103

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

※ 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
商品	55百万円	36百万円
原材料及び貯蔵品	140	122
計	196	158

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
給料手当	3,650百万円	3,810百万円
地代家賃	2,174	2,206
賞与引当金繰入額	1	6
株主優待引当金繰入額	385	342

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
現金及び預金勘定	11,877百万円	6,475百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△351	△371
現金及び現金同等物	11,525	6,103

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結損益 計算書計上額 (注2)
	直営事業	F C 事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	2,495	—	2,495	—	2,495
神楽食堂 串家物語	3,721	—	3,721	—	3,721
麵乃庄 つるまる	835	—	835	—	835
さち福や	1,608	—	1,608	—	1,608
天麩羅 えびのや	1,051	—	1,051	—	1,051
その他	5,161	—	5,161	—	5,161
F C 加盟金売上	—	91	91	—	91
F C ロイヤリティ売上	—	372	372	—	372
F C イニシャル売上	—	52	52	—	52
F C ランニング売上	—	284	284	—	284
顧客との契約から生じる収益	14,874	799	15,674	—	15,674
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	14,874	799	15,674	—	15,674
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	14,874	799	15,674	—	15,674
セグメント利益	1,433	575	2,009	△1,759	250

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,759百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当中間連結会計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては71百万円であります。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結損益 計算書計上額 (注2)
	直営事業	F C 事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	2,626	—	2,626	—	2,626
神楽食堂 串家物語	4,129	—	4,129	—	4,129
麵乃庄 つるまる	802	—	802	—	802
さち福や	1,633	—	1,633	—	1,633
天麩羅 えびのや	885	—	885	—	885
その他	5,113	—	5,113	—	5,113
F C加盟金売上	—	81	81	—	81
F Cロイヤリティ売上	—	366	366	—	366
F Cイニシャル売上	—	44	44	—	44
F Cランニング売上	—	245	245	—	245
顧客との契約から生じる収益	15,190	738	15,929	—	15,929
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,190	738	15,929	—	15,929
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	15,190	738	15,929	—	15,929
セグメント利益	1,387	535	1,922	△1,863	58

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,863百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当中間連結会計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては62百万円であります。